

世界景気に対する不透明感が強い中、日本株は景気敏感株の弱さが目立つ

2011年10月20日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

欧州債務問題への当局への対応期待から欧州株は反発も、米景気先行き懸念から米国株は反落

欧州株式市場は反発しました。ユーロ圏救済基金の規模拡大をめぐって仏独両国が合意するとの思惑などから、前日売り込まれていた金融株中心に買い戻しが優勢でした。一方、米国株式市場は欧州株反発や9月の住宅着工件数の大幅増などを好感して小幅高で推移しました。しかし、午後ベージュブックが発表されると売り圧力が強まり、マイナスに転じて引けました。ベージュブックは、企業の景気見通しについて全般的により不確かになっていると指摘し、多くの地区で成長ペースについて「緩やか」もしくは「非常に弱い」と表現したことから、市場では米景気の先行き不透明感が高まりました。業種別では、公益企業を除くセクターが下落。特に、前日に予想を下回る四半期決算を発表した米電子機器大手株を筆頭にハイテク関連株が弱く、米国株安に大きく影響しました。また、タイ洪水の影響でPCサプライチェーンへの悪影響も懸念され、タイでHDD生産の6割を行う米HDD製造最大手の株価も急落しました。

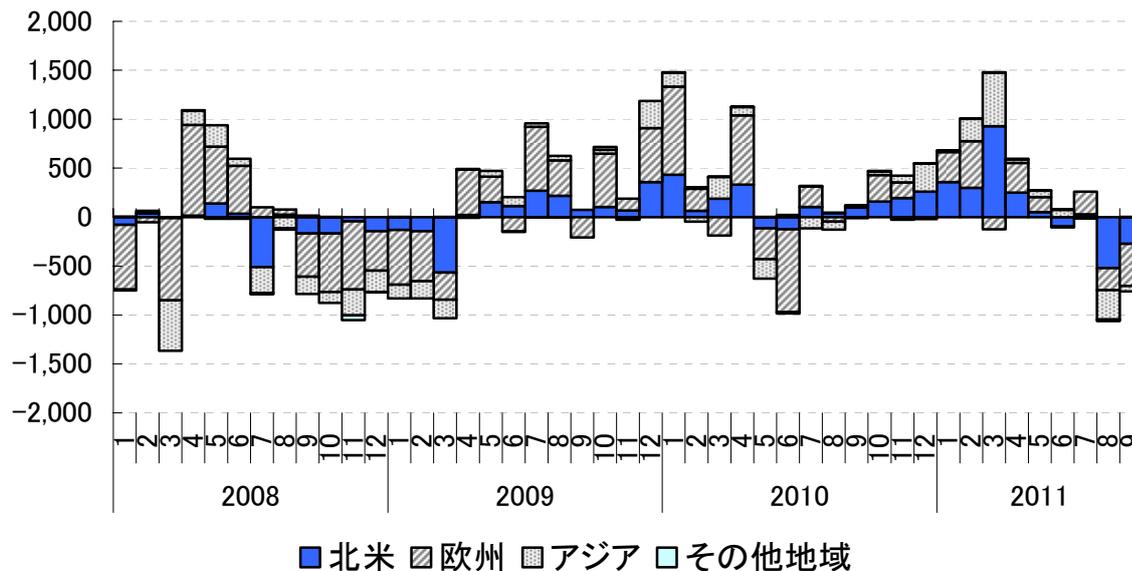
世界景気減速懸念が意識される中、日本株式市場もタイ洪水の影響もあり景気敏感株中心に軟調

米株安を受けて国内株式市場は反落して寄り付きました。内需ディフェンシブ株の一角を除き、景気敏感株中心に売りが優勢で、全体の7割程度が下落しました。業種別騰落率ワースト1位は精密セクターで、タイでの操業停止を余儀なくされたHDD部品メーカーの値下がりが響きました。PCメーカーにとって今は年末商戦に向けて大変重要な時期に入っており、PC部品のサプライチェーン寸断が長引いた場合の業績に与える悪影響が意識されました。また、ジャスダック市場に上場したIPO銘柄が公開価格を約▲20%下回る初値をつけたことも個人投資家の投資意欲の乏しさを印象づけ、市場心理を冷やしました。正午過ぎからは外部環境も一段と悪化しました。特に中国株の下落が大きく、日本株式市場でも海運株など新興国関連銘柄が売られ、日本株式相場は後場に入り下げ幅を広げました。ただし、本日も薄商いで投資家不在のマーケットの中、一段と売り込む動きは限定的で、結局、日経平均株価は前日比▲90円安の8,682円で引けました。東証一部売買代金は8,823億円と、4日連続の9,000億円割れとなりました。

海外投資家の売り圧力は足元で低下傾向

全国証券取引所による地域別海外投資家の売買動向によると、欧米投資家中心に8月と9月は二ヶ月連続で日本株を大幅に売り越しました。この間、北米投資家の売り越し額が最も大きく▲8,000億円弱売り超しました。一方、足元の売買動向を週次ベース（主要三市場）でみてみると、先週、外国人投資家は12週間ぶりに買い越しに転じました。最近の低調な売買高をみても、外国人投資家の売り圧力は弱まりつつあるように感じます。しかし、8月、9月の二ヶ月間で北米および欧州投資家が売り越した金額は合計▲1兆4,000億円で、昨年7月から今年7月までの買い越し額（約4兆5,600億円）の3割程度に過ぎません。そのため、欧米投資家の売り余力はまだ残っているものと思われ、引き続き注意が必要です。ただし、欧州債務問題への先行き不透明感を材料にした売りには一服感が出てきており、ユーロ圏当局による財政赤字国への救済策が整えば、投資家の不安心理は徐々に和らぎ、企業業績や世界景気動向に関心が移っていくものと思われます。

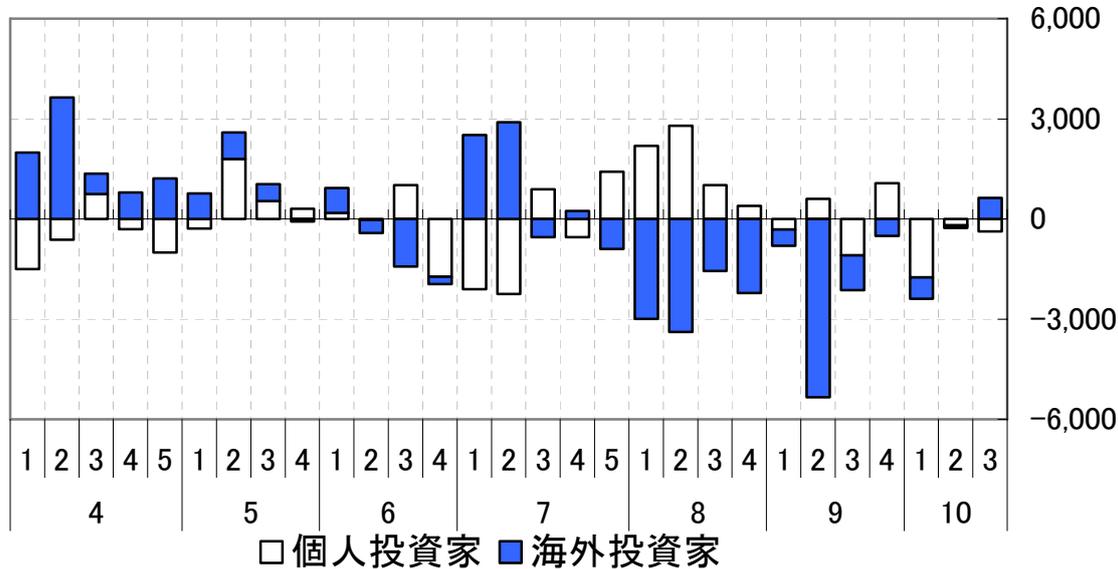
海外投資家地域別売買動向 (単位:億円)



(出所) QUICK

個人投資家と外国人投資家の売買動向 (主要三市場/週次)

(単位:億円)



(出所) QUICK